

野菜畑作生産情報 第3号（要約版）

平成27年6月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎小麦とにんにくの収穫期が早まっています。適期収穫に努めましょう！

○小麦

- 1 生育が早まり、刈取適期は6月末～7月中旬頃となる見込み。枯れ上がりの早いほ場が見られるため、収穫が遅れないようにする。
- 2 曇雨天が続く場合には、赤かび病の追加防除を行う。薬剤は、収穫までの日数が使用基準以内のものを選択する。

○大豆

- 1 出芽は、乾燥により一部で遅れが見られるものの概ね順調。
- 2 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- 3 害虫の適期防除に努めるほか、排水対策を徹底する。

○にんにく

- 1 球径、球重は平年を上回っている。
- 2 りん球の肥大促進と割れ玉の発生軽減のため、病虫害防除を徹底する。
- 3 収穫期は、平年より6～10日前後早まる見込みで、一般ほ場では収穫期となったほ場も見られる。
- 4 収穫時期の判定に当たっては、必ず試し掘りを行い、盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる時期に収穫する。

○ながいも

- 1 1回目の追肥は、①植付後の日数、②新しいもの長さ、③つるの伸長を目安として、適期に行う。
- 2 採種ほ場は、ウイルス伝搬を防ぐため、10日間隔のアブラムシ類防除を行う。

○春夏にんじん（トンネル栽培）

- 1 葉長は、乾燥により平年を下回ったが、葉数及び地下部の生育は平年並となっている。
- 2 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。

○ばれいしょ

- 1 着蕾期は平年より15日早い5月18日、開花期は13日早い6月1日となった。
- 2 疫病の予防防除を徹底する。
- 3 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。

○ごぼう

- 1 草丈、葉数は平年を上回っている。
- 2 除草、病虫害防除を適期に行う。

○メロン

- 1 生育は概ね順調である。
- 2 こまめな温度管理で生育の促進を図る。特に交配期は最低気温 15℃前後を目安に管理する。
- 3 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。

○ねぎ

- 1 生育は順調で、草丈、茎径は平年並から上回っている。
- 2 草勢の維持に努め、培土や追肥を適期に行う。
- 3 べと病等の防除を徹底する。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	今井 技師
電話番号	直通 017-734-9481 内線 3462
報道監	農林水産部 津島 農商工連携推進監 (次長) 内線 3181